

小学3・4年生
小学5・6年生
による

1 子どもが描く かみしほろの未来

=わくわくできる夢と希望がいっぱい！=

また、小学5・6年生によって作成された作文は、改めて未来のためにしなければならぬと気づかせられるものばかりでした。今後、学校や図書館などで閲覧できる予定です。



小学3・4年生によって描かれた絵画が町民文化祭や開町80周年記念式典で展示されました。



◀講師として、「NPOファシリテーションきたのわ」の松田剛史さん(写真左)を迎えました。同NPOの3名の方がグループのサポートとして参加されました。



◀高校生は中学生をサポートしながら、互いに意見交換を行いながらの作業となりました。



▲「今後の生徒会、学校生活に活かしたい」と生徒たちは語ってくれました。

わがまち 未来づくり事業

今年度、開町80周年記念事業として開催された「わがまち未来づくり事業」。本町に住むさまざまな年代の方々がかみしほろの未来を思い描いてきました。

2 中高生生徒会 サミット

12/17 土

12月17日(土)、上土幌中学校にて、中学校及び高等学校の生徒会で活躍している生徒たちが、まちの未来を担う力を養うためのワークショップに参加しました。

まず、生徒たちは「自分の夢」や「ふるさとで夢を叶えるためにどうすればよいか」などのアンケートを事前に記載してのぞみました。
そこには、「多くの人に町の良いところを伝える」「ボランティア活動を積極的に行う」「あいさつで町を明るくする」などが書かれており、生活する中で気づいたことや今後、取り組みたいことが書かれてい

ました。

ワークショップには、中学生5人と高校生9人のほか、講師なども参加し、3つのゲームを行いました。

まず、4〜5人のグループをつくり、「連想ゲーム」を行いました。与えられたキーワードを基に、連想した言葉を紙に記載するもので、自分と同じ言葉を書いた人がいれば、得点が与えられるというものです。
ゲーム後は、どのような考えで紙に記載したかをグループ内で自己紹介を兼ねて語り合いました。自分以外の方が連想した言葉を記載した参加者が多くの得点を得ました。

課題解決には まず雰囲気づくりが大事

声かけでコミュニケーションを：

2つ目と最後に行われたゲームは、配布されたシートに書かれた情報をグループで共有し、課題解決を図るといふもので、自分がグループ内でどのような立場で、どう行動すべきかを考え、課題の解決をどう導くかを考える作業でした。

「聴く」「考える」「伝える」などコミュニケーションを図るゲームで、参加者からは、「情報を伝えることのむずかしさを感じた」「もう少し声かけがあったらよかった」「全員がしゃべりやすい雰囲気をつくるのが大事」など、ゲームを振り返っていました。



このワークショップの最後に、講師の松田剛史さんは、こう振り返りました。
 「最近では、携帯などメールで言葉を伝えることが多く、声で自分の想いを伝えるのが難しかったかもしれません。
 伝えるということは、声だけではなく、目や体を使うことも大切です。また、相手の言葉をただ聞くのではなく、理解しようとして聴いたかが、とても重要です。
 未来を語る上で、自分がどのように生きたいか、どう他と関わっているかを考えると、より自分の夢や目標に近づけるかもしれません。」

3 未来づくり フォーラム

日時：**3月3日** 土 13:00-17:00 (受付 12:30 ~)
 場所：生涯学習センター視聴覚ホール

「上士幌らしいまちづくりとは何か」「我々にできるまちづくりとは何か」などをテーマに、講演会や実践報告、パネルディスカッションが開催されます。

<同時開催>
町民ひなまつり展
 場所：生涯学習センター 新館2階ロビー
 ■手作りのひな人形が会場を彩ります。

□基調講演 13:10~14:40



テーマ **まちを笑顔に！一人ひとりが輝く未来づくりへ**
 ~ローカルな物づくりの徹底と集積が発信の力となる~

▶講師：食環境ジャーナリスト **金丸弘美** 氏
 『田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則』著者

□実践報告 14:50~15:50

テーマ **地域活性化のヒント**

~徳島県上勝町「葉っぱビジネス」成功の秘訣~

▶講師：株式会社いろどり **滑川里香** 氏

□パネルディスカッション 16:00~17:00

テーマ **まちや町民の役割**

~地域の力を活かすためには何が必要か~

▶コーディネーター：**小山忠弘** 氏
 (上士幌町まちづくりアドバイザー)

▶パネリスト：**金丸弘美**氏・**滑川里香**氏・**竹中 貢**町長



▲葉っぱビジネスに取り組むおばあちゃん
【株式会社いろどり】
 徳島県上勝町は、人口約2000人の町で高齢者比率が約50%の町。日本料理を彩る季節の葉や花、山菜などを販売する農業ビジネスを展開し、年商2億6000万円を稼いでいる。女性や高齢者がパソコンを駆使し、自ら取り組むこの「葉っぱビジネス」は、世界の注目を浴びている。

■主催：上士幌町・上士幌町教育委員会

■後援：上士幌町農業協同組合・上士幌町商工会・上士幌町観光協会・ぬかびら源泉郷旅館組合・北海道十勝総合振興局・北海道教育庁十勝教育局・十勝毎日新聞社・北海道新聞帯広支社・NHK帯広放送局 <順不同>

※お問い合わせは、教育委員会社会教育担当(☎2-3024)佐藤、牧野まで